

09-111 第 19 回セミナー & サロン 開催報告 エネルギーと地球環境 - 循環型低炭素社会を目指して

部門企画委員長 浅野 等 (神戸大学)

2009年11月13日(金)、第19回セミナー&サロンが東京電力株式会社技術開発研究所で開催された。「エネルギーと地球環境 - 循環型低炭素社会を目指して -」をテーマとし、2件の講演、「電気の資料館」見学ツアー、電気自動車試乗会、部門賞贈呈式、そしてサロンが行われた。内容盛りだくさんであり、タイムスケジュールが厳しく、運営する側としては落ち着かない面もあったが、東京電力の方々のご協力を得て、また、名札の番号でグループ分けするなど下準備もあり、混乱なく皆様に楽しんでいただけたものと思う。講演は「電気の資料館」2階のミュージアムホールであった。会場は広く非常に立派であり、約120名の方々にご参加頂き、賑やかに開幕した。まず、東京電力技術研究所長、原築志様より「東京電力における技術開発」と題し、ご講演いただいた。柏崎原子力発電所の現況とCO₂排出量への影響、火力発電の高効率化、電力利用では電気自動車、ヒートポンプ給湯器など、限りある時間の中、効率よく多方面にわたる技術開発状況を紹介頂いた。講演会のあとの資料館見学ツアー、電気自動車試乗とあわせて参加者に印象に残るものであったと思う。次の講演は早稲田大学理工学術院総合研究所、伊東弘一教授による「各種エネルギー供給システムの最適計画」である。本論に入る前に、先生が初めて書かれたというヒートポンプをお題にした落語の話があった。帰りの新幹線の中で楽しく読ませて頂いた。講演では、コジェネレーションシステムをテーマに、一般家庭に対する最適運用計算結果、設備更新計画などを話された。光と陰を話すとされていたとおり、よい話ばかりでなく家庭用コジェネ、マイクロコジェネ、マイクログリッドの問題点を示されるなど家庭用コジェネの研究をしている者にとっては刺激の強い部分もあった。講演の最後には、細くしなやかな字で書かれた良寛の書を示され、無駄を排除することが重要であると述べられた。

講演終了後、4グループに分かれ「電気の資料館」の見学ツアー、電気自動車の試乗会を行った。資料館には歴史上貴重な発電機から実機火力ガスタービンのカットモデルまで幅広い展示物があり見ごたえのある素晴らしいものであった。天候はさほど良くなく、小雨降る肌寒い中、電気自動車に試乗いただいた。担当の方の計らいで、2台の電気自動車を準備していただき、皆様に試乗いただいたようである。ゴルフ場にあるような電動カートと同じようにも思うが、試乗することで、普及させるための問題点、課題を体感されたのではないかと思う。

暖かいコーヒーと歓談のあと部門賞贈呈式が開かれた。大竹部門幹事司会のもと、受賞者の入場である。参加者の拍手の中、部門長が先導し、功績賞の先生方、技術賞、優秀講演賞、フェロー賞の受賞者が入場された。会場前列にはこれまでの功績賞受賞者が着席しておられ、入場の様子は荘厳であった。受賞された若手研究者や学生諸君には励みになったことと思う。

贈呈式のあと、梅沢部門企画委員の司会により技術研究所食堂でサロンの部が開かれた。会場を提供いただいた東京電力を代表して森治嗣様の挨拶、筆者(部門企画委員長)のつたない挨拶のあと、日本原子力技術協会 最高顧問 石川迪夫 様の乾杯の音頭で歓談を開始した。時間が多少押し気味ではあったが、技術賞、優秀講演賞、フェロー賞受賞者の挨拶、原口副部門長による手品まで司会の巧みな話術も



原 築志 講師



伊東 弘一 講師



電気自動車試乗会の様子



部門賞受賞者

あって、盛況に終えることができた。筆者は終了後、急ぎ帰阪したが、その後も川崎の夜を楽しまれた方も多かったようである。

来年度は、部門創立 20 周年の節目である。記念事業として、国際シンポジウムをセミナー & サロンに併催する形で計画している。エネルギー問題が重視される中、産官学、学生からこれまで功績賞を受賞された先輩方に至るまで、幅広い分野、世代が集う貴重な機会であるので、是非ご参加いただきたいと思う。



セミナー会場



東京電力 森 様



日本原子力技術協会 石川 様



サロン歓談の様子



サロンでの原口副部門長の手品